

## 「レイドロー報告とは？～」

1980年に開催されたICA(国際協同組合同盟)第27回モスクワ大会におけるレイドロー博士の報告「西暦2000年における協同組合」のこと。

レイドロー博士は、思想的危機を以下のように提起した。「協同組合は、『存続の危機』『経営の危機』を克服してきたが、現在は『思想的危機』を迎えている。『思想的危機』の問題意識は、“協同組合が他企業と同じような商業的な意味では成功していても、それ以上のことを何もやらないとしたら、それで十分であろうか。” 協同組合の真の目的は何か、(株式会社と)別な種類の事業体として明確な役割を果たしているかという疑問が強まってきた。異質の価値が支配する傾向が強まっている。”

また「西暦2000年における協同組合」の中で将来への選沢として**4つの優先分野**を示した。

### 1. 第一優先分野—世界の飢えを満たす協同組合

今後、世界の協同組合特に世界の食糧問題に、生産から消費までの全過程にわたって、その努力を集中すべきである。これは人類にと っの重要なニーズの分野であり、ここでは協同組合は世界的な指導性を発揮することが出来る。

### 2. 第二優先分野—生産的労働のための協同組合

労働者生産協同組合は、労働者と職場との間に新しい関係を築き、もう一つの産業革命をもたらす最良の手段である。

### 3. 第三優先分野—保全社会のための協同組合

従来の消費者協同組合は、たんに資本主義企業と競争するだけでなく、それ以上のことをするような方向へ転換すべきである。そうすれば、ユニークで、違った形態の違った事業体として知られるようになり、組合員だけに貢献するようになるだろう。

### 4. 第四優先分野—協同組合地域社会の建設

都市の住人に奉仕するためには、都市の中に村を建設するのに役立つ多くの異種協同組合の集合体をつくるべきである。